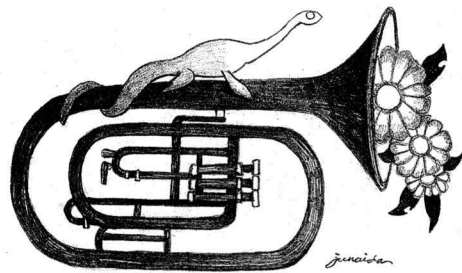


歌壇 俳壇



「日曜日のブローチ」 junaida

● 永田和宏選

その言えは北京五輪の直後だったこんな理不
尽いつまで続く (市川市) 末長 正義

オリンピックのドローンの羽音戦場に聞かぬ
ばならぬ兵士の恐怖 (観音寺市) 篠原 俊則

転ばぬやう怪我せぬやうにと抱へられ運ばれ
てみたし一生に一度(さいたま市) 中田 裕子

☆私にもふわりとやって来た不思議生まれた家
を妻家と呼ぶ日 (富山市) 松田 梨子

保土ヶ谷の谷に納得の坂くたる梅林園のさわ
やかな道 (横浜市) 田中 廣義

指先にクリーム塗って点字読む盲学校の図書
室の子ら (半田市) 森下 久子

非常ベル鳴っているのに気づかないふりをし
ている我ら人類 (東京都) 富尾 なつ

仁丹とメンソレータムと救心を常に持ちたい
国になりな (君津市) 内川 英夫

昭和の父は (橋本市) 秋月 晶江

わが庫裡が投票所でありし頃裏口より入り勝
手口より出し (東根市) 庄司 天明

【評】末長さん、二〇二二年二月にロシアのウクライナ侵攻が始まった。四年に一度の五輪、その間ずっと続く戦闘。篠原さん、五輪でのドローンの活躍には目を瞠ったが、戦場では恐怖以外のものではない。中田さん、りくりゅうペアを見ての思い。

● 川野里子選

父の忌はグラビアで見し轟沈図マニラ湾にて
見しと語る (東根市) 庄司 天明

呪者が猿か叫ぶがごとき縄文土器生き延びる
ため叫びあひしか (船橋市) 小野口公也

弔辞読む息子はときを空仰ぎときれときれ
に妻を恋ひたり (奈良市) 三ツ星治枝

蜂蜜をたつぷりパンに垂らす時なせか失う平
衡感覚 (埼玉県) 水野 勝浩

楽しげに歌う母見てまどろみぬ介護疲れの丑
三つ時に (長崎市) 小林 祐子

いい夫を演じたいんだきつと俺老老介護の瑣
事に苦しむ (浜松市) 久野 茂樹

影でなく光を踏んで会いに行くどうか貴方も
淋しく居てね (市川市) 小林 重子

iPhoneを空にかかげて7人はプーケみたい
につまんで笑う (東京都) たむらおきた

目ん玉で水持ちあげての出目金に春の金魚田
すこし干あがる (大和郡山形市) 四方 護

ぬばたまのクロネコヤマト宅急便とびらの前
へ夜を置き配 (浜松市) 尾内甲太郎

【評】一首目、記憶にない父の唯一の手掛かりが戦艦が沈められた瞬間の図なのだ。二首目、土器の文様に人間の生きざまを見る。三首目、妻を亡くした息子を見詰める母の眼差しが哀切。四首目、蜂蜜を奪さぬようにパンを、自分を傾ける。

うたをよむ 東日本大震災から15年

梶原さ世子

東日本大震災から十五年。ついでこの間
のごとくのように感じられる一方、確実に
月日は流れており、この数年の短歌にも
その変化がいよいよ映のてきている。
モニタリングポストは草のなかに古り
折らるるものに姿似てゆく

小林真代「4766日」
原発事故後、放射線量を測定するため
に設置された「モニタリングポスト」は、
草に埋もれ、偶像のようになりつつある。
教室は災後生まれに満ち溢れ私を語り

部へと押し上げる
武田生吹「NHK短歌」2022.5.6
震災を知らない世代に、どう伝えてい
くか。経験した者としての使命感が「語
り部」という表現につながった。
むろん、時間が経っても変わらない状況
や思いもある。
中間とふ名を持つ廃物仮置場 最終処
分場は決まらず
吉田信雄「うた新聞」2024.4.3
どこにどこに命はどこに あの日から

理不尽なことは理不尽なまま
斉藤梢「短歌」2024.5.5

除染士の最終処分場は、いまだ決まっ
ていない。また、震災で奪われた命への
やりきれなさは消えない。それでも、
震災の「せいでも」と思ってたが今では
時間「おかげで」に変えて
半澤トヨ子「朝日新聞みちのく歌壇」
2026.3.7

作者は、福島県双葉町から別の土地に
避難した。これまで困難がたたくさんあつ
たと思われるが、今、震災の「おかげで」
と言えることに救われる。十五年といふ
歳月が、なした一つである。(歌人)

● 佐佐木幸綱選

☆私にもふわりとやって来た不思議生まれた家
を妻家と呼ぶ日 (富山市) 松田 梨子

☆姉嫁く前夜の約束はあちやんになっても仲良
し姉妹でいよう (富山市) 松田 わこ

パパ友かベビーカー押す男性が二人並んでに
こやかに行く (茅ヶ崎市) 横田 和江

短歌に若人ふたり加はりて勢を増す口語の
短歌 (厚木市) 北村 純一

亡き父の墨壺磁石舳尺器用でなければ暮らせ
なかつた (観音寺市) 篠原 俊則

屋外の寒さ厳しき喫煙所休憩なのに修行に見
える (長崎市) 小林 武徳

我が夫の身仕度させる湯灌師に人生初のチツ
プを渡す (防府市) 島田 茶々

「體です」と端末を見ながら医師は言ひ頷く自
分を見下ろしてある自分(生駒市) 辻岡 瑛雄

ドローンが戦場でなくイタリアでスノボの選
手を追いかけている (小金井市) 神威 勇

亡き妻はときどき童謡うたつたてた心にこらぬ
ようにしていた (館林市) 阿部 芳夫

【評】第一首、梨子さん、ご結婚おめでとう！ 二〇一一年刊行の歌集『たなかでさんぼ』を思い出したりしながら、「朝日歌壇」の若きスターの門出を祝っています。第三首、「パパ友」という語で、楽しそうな二人の男性をクローズアップする。

● 高野公彦選

ヨコハマの浜は濱なり三水に兵と記すより實
に品あり (三浦市) 秦 孝浩

太古にはアフリカにしかいなかったホモサピ
エンスの戦は止まぬ (東京都) 榎 泰文

朝刊の関税記事に憤り短歌俳句に宥められゆ
く (神奈川県) 吉岡 美雪

放り上げ回転させし璃来の身を受ける利那の
龍一の笑み (名古屋市) 大飼 亮介

☆私にもふわりとやって来た不思議生まれた家
を妻家と呼ぶ日 (富山市) 松田 梨子

☆姉嫁く前夜の約束はあちやんになっても仲良
し姉妹でいよう (富山市) 松田 わこ

三日干し白く粉を吹く若布食む書き潮はかく
も甘きか (下関市) 内田 恒生

験日 (東京都) 富田 礼子

性善説が死語となりゆめく悲しさよ特殊詐欺満
つ令和の時代 (仙台市) 沼沢 修

付度をせず国王の弟を逮捕する国の正義(義)し
き (イギリス) 高橋みどり

【評】1首目、反戦思想を秘めた面白い歌。2首目、太古の地球はアフリカ大陸に少し人類がいただけで戦もなかったが、その後世界中に進出して戦争を止めない、と嘆く。3首目、トランプの関税を憤った後、歌壇俳壇で慰められる作者。

風信

鎌田東二・笹公人著「言霊の短歌史」 宗教
学・鎌田と歌人・笹の対談集。「言霊」という
視点から和歌や短歌の歴史を捉え直す。巻頭
に両者の歌も収録。(KADOKAWA・2860円)

◇朝日歌壇 入選取り消し 3月8日付の歌壇に
掲載した「地図にない山から先に笑い出す見知らぬ
人と駅から眺む」は、同じ作者による類似作品がす
でに発表されていたので入選を取り消します。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録
し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表
の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。
郵便での投稿は無地ののがき1枚に1作品、横
に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661
清海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、
俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき
ます(週に2作品まで)。QRコードから。

